

は
が

「誰でも書きやすいようにせんとなあ」
福祉ふれあい部会の皆さん

ひとりでは地域づくりはできん

ふるさと自立計画推進モデル事業安賀自治会

安賀自治会は、昨年度から県の補助を受けて「ふるさと自立計画推進モデル事業」を3年計画で取り組んでいきます。「農業」「文化歴史」「福祉ふれあい」の3部会を作り活動をしています。

福祉ふれあい部会では、年齢層別のアンケート調査を行いました。高齢者が不安に感じていること、支える側ができることなどがよくわかり、安心して暮らせる地域づくりの取り組みに活かされるそうです。

また、緊急時に連絡先などがすぐ分かるように「笑顔の安心ボード」を作りました。

このボードには緊急連絡先のほかに、既往症やかかりつけ病院等、緊急時や災害時に誰が見ても対応できる様式になっています。部会で書き込む内容を何回も話し合い作成しました。穴栗市の「救急医療情報キット」も全戸に配布済みです。

「一人では地域づくりはできません。経験とみんなの後押しで。」と自治会長の清水隆司さん。これからも、安賀自治会の取組みに期待します。

(波賀支部 上田めぐみ)



いざという時に大きな力を発揮します
安心ボードと医療救急キット

ち
くさ

わずか2cmの敷居にも足が止まります
(11/22 奥西山公民館)

11月12日(土)、西河内福祉連絡会では、ひとり暮らし高齢者等の情報交換や福祉委員の役割について話し合いの場をもちました。



「自分らの地域は、自分らで守っていかなあかん」
(11/12 西河内公民館)

広がる福祉連絡会の実践 西河内、奥西山の取組み

11月22日(火)、車椅子やアイマスクでの福祉体験学習を行い、体験を通して障がいのある方への配慮や共に生きることについて考えました。

このように、福祉連絡会が自分たちの地域について考える機会をつくることにより、地域福祉への関心や理解が広がります。

(千種支部 小原志のぶ)

